

1 主題名 本当の思いやり

2 教材名 「せきが空いているのに」〈出典：光文書院〉

3 主題構成表

■ 内容項目 B 親切、思いやり

相手のことを思いやり、進んで親切にすること。

■ 価値の分析

- ・望ましい人間関係を築くには、互いが相手に対して思いやりの心をもって接することが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を考え、相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。
- ・中学年の児童は、友達との交流が活発になり、活動範囲も広がってくる。関わりが増えていく中で、相手の気持ちを察したり、より深く理解したりすることができるようになる。一方、他の人々の感じ方や考え方が、自分と同様であると思込み、押し付けてしまうこともある。そのため、相手に対する思いやりの心を育てることが必要である。
- ・相手の置かれている状況や困っていること、大変な思いをしていることなどを自分のことに置き換えて推し量り、親切な行為を進んで行おうとする意欲を育てる。

■ 内容項目から見た児童の実態（意識）

- ・授業の中で、分からずに困っている仲間に対して教える姿や、仲間の係の仕事を手伝う姿が見られる。
- ・一方、仲間がその子自身でやるべきことまで、先んじてやってしまう姿も見られる。

■ 意識の要因

- ・他の人に対して「何かをしてあげること」が親切であるという意識が強い。
- ・相手の立場や気持ちを考えず、自分がすべきことだと思って行動してしまう。
- ・自分が親切だと思って行った行為を、相手がどう感じているか考えられない。

■ 教材の分析

- ・主人公が電車に乗っている時、白杖を持った人が乗車してきた。心配になった主人公は、自分では声をかけられず、一緒にいた父親に自分の思いを伝える。声をかけた父親が戻ってきてしてくれた話を聞き、一方的な思いやりではなく、相手が望むことで支えていく（親切にする）ことが大切であると気付くことができる話である。
- ・白杖を持つおじさんを心配する主人公の一方的な気持ちに共感することができる。
- ・自分達の意識の中の「親切にする」ということはどういうことか確認し、「本当の親切」とはどういうことかについて考えることができる。
- ・一方的な親切でなく、相手の立場や思いを大切にしたりした親切で、互いが温かい気持ちになることに気付くことができる。

ねらい

父親と白杖を持つおじさんとのやりとりから、本当の親切とはどういうことかを考える活動を通して、相手の立場になりその人の気持ちを理解することの大切さに気づき、相手が望むことをしていこうとする意欲を育てる。

■ 研究内容に関わって

＜Ⅱ－① 価値への方向付けと問題意識を引き出す導入の工夫＞

アンケート結果の中の自分が認識している「親切」が、相手にとって本当に親切であると言えるのかと問い、異なった視点から考えさせることで課題化を行う。

＜Ⅱ－② 多面的・多角的な考えや多様な感じ方を引き出し、人間理解、他者理解、価値理解、自己理解を促す発問の工夫と精選＞

席に座るといふ結果にはつながらなかったが、ぼくと白杖を持つおじさんの二人ともが嬉しくなった理由を考えさせることを通して、本時の価値である「本当の親切」の内容に迫らせる。

